



発行所  
福井県大野郡  
和泉村

(昭和41年9月1日現在)

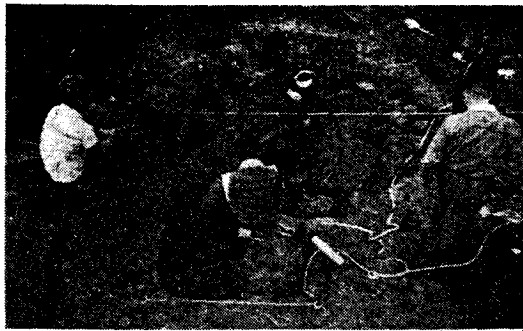
村の人口	
出生	3人
死亡	2人
転入	44人
転出	30人
総人口	3,908人
男	2,068人
女	1,840人
世帯数	1,208世帯

村の面積  
332.26平方km

### 今月の目標

- 1、「家庭の日」を各家庭ですすめよう  
「第3日曜日」
- 2、健康な家庭をつくろう
- 3、健康な体力づくりに努めよう  
(10月10日)

## 推定千年の遺跡発見 — 小谷堂部落 —



(発掘された住居跡 ○イロリ跡)

かねて旧石徹白村より合併した小谷堂地区の畑地から、折にふれて雨水に洗われて矢尻石、土器破片等拾い上げられ村人の話題の一つとなっていた。当村には他にもこれに類する石器類が各所で野良人達によって拾い出されているので、小谷堂の出土品もさして



(発掘作業中の研究生 ○発掘された土器)

好奇を呼ばなかったが、同部落は電源開発工事の完成と共に奥地残存の極めて不便なところに位置することになるため、近く全面多住が定まっている。これを契機に村文化保護委員会は、同部

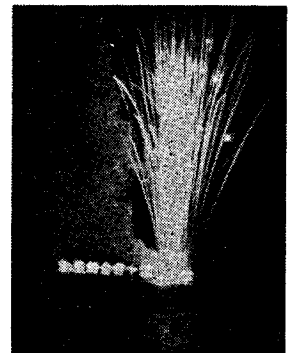
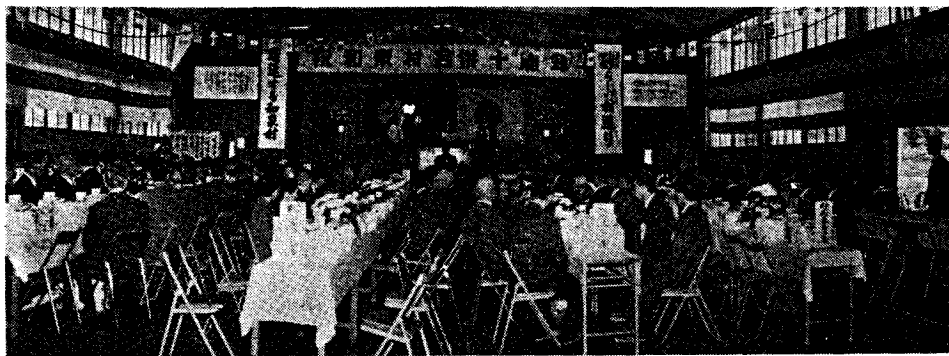
落の畑地一部を試掘したところ、約一メートルの地下に古代住居跡が発見され、而かも建築様式から推定して縄紋中期と見られている。この種のもは嘗て本土の東北地方で発掘されているが、今回のものはこれよりはるかに原形に近く約四千年前のものであることは貴重な発見と見られる。

中央の竪跡、周囲の柱形、附近から出る縄紋土器、狩猟用矢尻石、石のオモリとおぼしきもの、火おこし器様のもの等、古代人類生活史の研究に大きい示唆を与えるものと考えられる。

調査団の一員森川氏(小浜水産高校教諭)等の話によると、西日本では或は唯一の発掘ではないかとのこと、村文化保護委員会の調査によると、同期の遺跡は旧石徹白村から石徹白川添いに点々と存在する古代人の住居系統を示すものの一つではないかと推測され今後は今回の出土品を斯界の権威者に正確な鑑定を依頼し、現調査団の推定に誤りがなければ、県教育委員会などに協力を求め更に発掘の歩を進めたい考えである。

出土品は一応権威者の鑑定を得た上村教育センターに陳列の予定。

○ あなたは自分の目をしごきすぎている



(秋の夜を色どる花火)

### 祝賀会おわる

かねて広報特集号でお知らせしましたとおり秋晴れの九月二十九日、本村朝日中学校に於いて和泉村合併十周年記念祝賀会が盛大に挙行政されました。

当日福井県知事、県選出国會議員を始め村外名士ならびに村内多数の来賓の出席を見て、村長の挨拶に合併後の変遷と新しい村造りなどが約束され来賓各位より祝辞と躍進する和泉村に賛辞がおくられた。盛んな拍手に移住された村民も感慨無量の趣が見られた。

なお永年勤続議員ならびに退職された永年勤続職員に十五年以上には表彰が行われ、部落区長及び農業委員の永年勤続者には感謝状がそれぞれおくられた。

祝賀会終了後は舞鶴海上自衛隊音楽隊の特別出演に依り演奏会が華やかに開幕され、勇壮なる軍艦マーチに始まり、記念祝賀会にふさわしい様相を見せてなかなか記念行事のスタートであった。

(↑祝賀会式典の模様)

# 交通暴力の追放!!



自 十月十一日から  
至 十月二十日まで

派出所だより

△あなたは交通違反をしています。

- (1) 道路の左側を歩くこと
- (2) 道路を斜め横断すること
- (3) 道へ急に飛び出すこと
- (4) 自動車の直前、直後の横断すること
- (5) 道路で遊びをすること
- (6) 酒によって道路をふらつくこと
- (7) 交通の障害になるところで立話しを



(交通取締り風景)

すること

(8) 自転車二列以上になって道路を進むこと

## 交通安全標語

「あなたの安全はあなたにある」  
「もう一度よく見て渡れ手をあげて」

## 農業委員会決まる

九月十一日告示された本村農業委員会委員選挙は、定数十名に対し立候補者十名となり、選挙期日(九月十八日)をまたず無投票当選が決った。選挙による委員のほか農業協同組合の理事一名、本村議会が推薦する学識経験者一名も選任されました。

選任された委員は次の通り(受付順)

- 川合 新井太郎 55
- 後野 三島 勇 47
- 下大納 古川五代松 63
- 上大納 幅下 利夫 40
- 角野 谷口 清次 32
- 貝皿 吹屋 与市 46
- 角野前坂 平瀬仁三郎 75
- 朝日前坂 原 勇松 58

伊月高崎 弘 42  
朝日表 正一 51  
推薦による委員

板倉 森尾 正 67 (農協推薦)  
下山 林 敏雄 46 (議会推薦)



(健康診断の様)

## 一日移動保健所開設

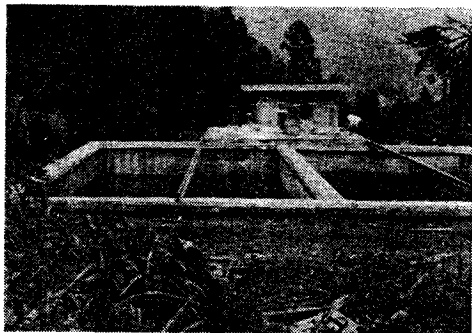
「健康は命の母」、「健康は唯一の資産」何よりも先ず第一に、自分の健康状態を認識して、健康維持につとめ明るい幸福な家庭を築き、住みよい郷土をつくりましょう。

八月二十五日へき地対策事業の一つとして、一日移動保健所を開設し、結核予防健康診断、血液型判定、血圧測定、検便検尿など、大野保健所長、木村衛生課長、富田婦長外所員十一名が来村検診にあたられました。早朝から村民が来診され一三〇余名が自分の健康に自信をもち、或は早期発見に治療の指導を受けそれぞれ有難い一日でありました。

## 簡易水道敷設成る

長年の間計画中であった朝日、川合貝皿、板倉、角野五地区、給水人口五七〇人の簡易水道を、四〇年九月、二年継続事業として国庫補助の承認を受け、設計工事費一千六百三万八千円にて、福井県下火道業者六社を指名入札の結果、大野市友兼、大高建設株式会社福井営業所が一、千三百三十万円で落札。昭和四十年九月十日着工、本年七月三十日完工いたしました。

一、水道法により十月一日より塩素滅菌をいたしますので魚類に流水しないよう。  
二、使用しない時は給水口を閉じるようお願いいたします。



(貝皿ヶ谷における水道設備)

今後こうした機会がある毎に村民の皆様こそぞって検診を受け、益々健康増進に努めましょう。

## 村議の顔

三島 利夫

趣味 釣魚、日々の仕事に忙殺されている私達には、和泉の清流に糸を垂れ、精神を糸先の一点に集中する無我の境は、何とも言えない禅的なおもむきがあって、私には何ものにも替え難い精神修養の一つである。

読書、秋から冬にかけて燈火のもとで静かに趣味の書を開く心地は、この山村へき地に住む私たちに与えられた特典と思う。

抱負 県下で代表的なへき地である当村も、近年簡易水道、道路舗装等着々と拡充されて、へき地という感じも漸次薄らぎつつあるが、毎日を送っている、まだ取残された問題が残っている。例えば道路幅員が狭い割に車の数が多く且つ、スピード化していることなど村民等しく危険を感じていることと思う。又、離村者と残存者とのバランスが失われて村造りに影響するところはないだろうか。など底流する問題点が次々と生れて来る、これ等を円満解決してゆくことが、ここに生れた私の使命であり、よりよい和泉村にしたい。

希望 自己反省ではあるが、もともとと社会生活に向かないのかお世辞らしいものが言えない。このことは私にとって大きい苦痛であり、又、一面自分への魅力でもある。今後十分反省して見たい。更に、内容的には常にひとのことを先ず考えるゆき方に進み、社会から期待される自分になりたい。

○ 青は藍より出でて藍より青し

### 火災予防 (その二)

今日一般家庭で使用している燃焼器具は少ない家庭で三種類、多い所では五種類以上のものが使用されており、石油ストーブ、プロパンガス、電気アイロン、電気ストーブ、石油コンロ等、使用法をあまり守る事により大事にいたる可能性は十分にあるものと思われ。こうした燃焼器具の普及と共に注意せねばならない点などお知らせして見たいと思います。

#### ▼危険性の排除

(1)燃焼器具、かまど等の破損箇所や故障の修理  
イ、火を使う設備や器具は、常に点検し破損や故障を放置せず直ちに修理するよう心掛けること。

(2)火気を使用する安全な場所の選定  
イ、石油ストーブ等は、ふすま、カーテン、座ぶとん、障子などに着火しない距離の所で、かつ上部の棚などから落下物のない位置を選ぶこと。

ロ、コンロは耐熱性のある不燃性の台の上で使用すること。

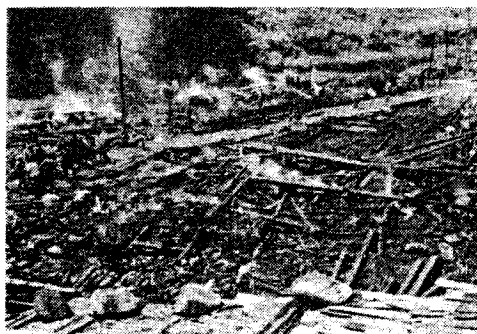
#### (3)環境の整理、整頓

イ、白灯油、スプレー型式の化粧品、殺虫剤等、最近家庭内にも引火性の危険物が非常に多くなってきたので、しまい場所等に充分注意して整理しておくこと。

ロ、使い終わった空缶、空ビン等にも引火性ガスが残っていることがあるから充分気をつけること。

#### (4)危険物品の適正な管理

イ、石油缶、プロパンガスのボンベ等は燃えやすい物のない場所に保管し適正に処置しておくこと。



(過去における大火より)

#### ▼火元の確認

(1)火気使用時及び使用後の注意  
イ、アイロン、電気ごたつ、その他の電気器具を使用した後は必ずコンセントをはずすよう習慣づけること。

(2)たき火等の残り火の注意  
イ、たき火をした後は残り火に充分注意し、完全に消火すること。

ロ、取り灰を軒下、物置の近くに置いたり、ごみ箱などに捨てるのは危険であるからあきドラム缶につめるとか、上にトタンをかけて保管する等の方法で保存し、捨てる場所には石コンクリートなど耐火材料で囲った灰捨場に捨てるなり上に土をかぶせる等の措置をとること。

(和泉村消防団)

### 赤い羽根共同募金運動

10月1日～12月31日

昭和二十二年にこの運動が始められたからことはちょうど二十周年になります。これを機に、本村でも各部落戸別募金において昨年の約五〇〇増の十七万円を目標額として十月一日から募金運動を展開することになりました。募金の配分については、心配ごと相談所や保健福祉活動を推進する事業、地域で困っておられる方々の慰問金や季節保育所に配分する事業、災害のため住宅に被害を受けた方への見舞金、市町村が行なう福祉事業など市町村単位とした社会福祉事業の推進育成に大きな役割を果すことになりました。このほか老人、からだの不行届な方、親とともに生活のできない乳児や子ども知恵のおくれた人々のための施設の運営

### おとしよりの皆さん

#### ごころうさん

長生きをして下さい、と敬老の日に老人をなぐさめる会が、朝日中学校で行なわれました。六十才以上のおとしより一〇〇余人が、参加し、家庭教育委員人が、参加して昔なつかしい思い出を語り合ひ、県社会教育からは、九日敬老の酒生文彦氏、午後からは婦人会の皆さんやかわいいお孫さん達の数々のもよおしに、この日はやはり日頃の苦勞も忘れ楽しい一日を過ごした。

営費や増改築に要する費用など、県を単位とする社会福祉事業にも配分する計画がたてられているのです。このように尊い募金は数多くの人たちに大きな力と勇気を与えているのです。社会福祉事業の推進にあたっては皆さんの深い理解と関心によって目的が達成されるもので、地域住民のしあわせのため、村民のご協力をのぞんでいきます。

### 人のうらみ

【出生】 (八月分)

角野 山田 和弘 輝晃長男  
下山 占 ひとみ 正直参女  
後野 三嶋 正人 靖治長男  
上半原 石神 知昭 光広長男

【婚姻】

○伊勢 帯刀 胤久  
坂井郡丸岡町 三谷 経巧  
○岐阜県郡上郡大和村 村井美智子  
東市布 田中 耕次  
○大野市横 黒田美津子  
東市布 田中 稔

○北海道爾志郡熊石町 酒谷 繁子  
米俵 池尾 義雄  
○板倉 佐藤 政幸  
○上大納 谷口恵美子  
○上大納 石橋 稻子  
○上大納 寒田 美年  
○上大納 内田 勝子  
○上大納 伴 俊孝

【死亡】

○上大納 平瀬 久 三三才  
○鹿島 林 昌彦 四二才  
○下山 坂下四郎兵衛 八九才  
○面谷 鳥山 はつ 八五才

### 昭和二十八年 大納母の会設立御文

谷口市松

ソモソモ此ノ母ノ会結成ノ由来ハ何ノ為ゾト云ウニ更ニ他ノ事ニアラズ、母トシテノ心構エヲナサシメンガ為ノ方便ニ仏ノ大慈悲心ヲ基トシテ毎月一回ノ母ノ会ヲ行イ、自身ノ心ノ垢ヲ洗ウコトハ勿論ノコト親ノ慈悲ノ心ヲ以テ共々ニヨリヨキ子供ヲ育テ上ゲシムルヨウニ務ムルコトヲ以テ肝要トナスナリ。然レバ之ヲ行ウニ於テハ先ズ親ノ眞実ノ慈悲ノ心ヲ以テ子供ノ教養教化ニツトメ、一人ナリトモヨリ良ク育て、家ノ為國ノ為社会ノ為ニナルヨウナ人物ニ仕上ゲテ、明るク楽シク明朗活発ナル社会人ヲ作ル事ニ心ガケラルベキモノナリ。

ソレ人間ニ流布シテ世間一般ニ考ル所ハ只々勉強セヨ偉クナレヨ立派ナ人ニナレヨ良キ人ニナレヨト云ウ事ノミニテ眞実ヲ尽シテ誠心カラ子供ヲ育テルト云ウコトヲ知ラズ。朝ナタナニ只々口ヤカマシクシカリクラスコト常ノ人ノナライナリ、コレハ大キナルアマリナリ。子供ヲヨクソダテルト云ウコトハサラニ何モ別ノ事ニハアラズ神ヤ仏ヨリ授カリタル親ノ慈悲ノ心ヲ子供ニ分チ施シ伝エ行ク事ヨリ外ニ何ノ雑作モナキ事ナリ。サレバ親タル者ハ常ニココノ心ヲ以テ日々ノ子供ノ育て方ニモ一家ノウチニモ隣近所ノ交リニモ御客ノ接待ニモ百姓ノ仕事ニモ商賈ノ上ニモココノ心ヲ用イ、念仏ト共ニ日常ノ業務トシテ精進スル事ガコノ母ノ会ノ最モ肝要トスル所ナリ。

(四面につづく)

○ 石が流れて木の葉が沈む

# 「家庭の日」設定

## 毎月第3日曜日

高志福祉事務所主催で十月十六日の第三日曜日より「家庭の日」として、家庭生活が健康に、いとなまれ子どもを育てるにふさわしいものにするための契機とすることになつた。

「家庭の日」には住んである家族全員が顔をそろえて、皆んなが意志の疎通、感情の融和をはかり、お互いを理解し協力しあつて健康な家庭づくりをすることを目標としてゐる。

- 本社の任命された推進員
- 委員 村長 杉本 又助
  - 幹事 厚生主任 宮原 公夫
  - 全 公民館長 朝日 敦雄
  - 推進員 民生委員 原 信楽
  - 全 朝日 秋子
  - 全 平野 善子

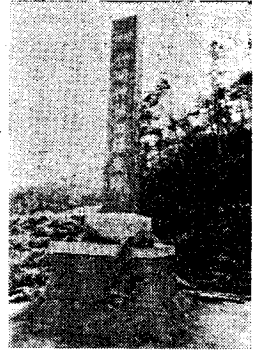


### 上伊勢皇太神宮

千古の歴史を秘めた伊勢のお宮も、電源開発のため昭和四十年九月十四日御神休は、伊勢氏子の尽きない名残を惜しんで大野市熊野神社浅山宮司のもとに一時預けられた。

祭神は本社皇太神、八幡神社、兼師如來の三尊にて、後には水没地の各神社と新社殿に合祀する予定である。古くからの伝説によると、伊勢の皇

(上伊勢皇太神宮跡に建立された記念碑)



太神宮が現在の三重県五十鈴川の畔に鎮座される前にこの地にまつられたもので、本尊は天照皇太神と伝えられて本社の正面には金文字で「太神宮」の大額が掲げられてあつた。太平洋戦争の前後太陰曆が姿を消したためお祭の日を七月十六日と変更したのであつて旧曆の六月十六日が毎年の例祭で、この日は「伊勢のまつり」といふふらされ近郷近在の他町村から商人が玩具やお菓子などの露天店を並べ、夜は満月の月明りを幸いに、多くの若者達が踊りにつめかけ、夜を徹してのにぎわいは昭和の初期まで続いた。

古老の話によると明治の初期までは伊勢皇太神宮から榊原大太夫がお供を従えて参拝し、祭の当日のために、氏子が総仕事で準備してこしらえた玉砂利を敷いて両側に幣をつけた麻から「アサの茎」を立ててならべた参道を、衣冠束帯に身を正しおみおのぞうりをはいた榊原大太夫がしずしずと進み、本社殿の直前にある大いなる石盤(四尺に二尺五寸大)の上荒ゴモを敷き、その上に端坐して礼拝したという。今は故人となられた元上平原の長谷川匡雄氏は伊勢のお宮の史実を明らかにするために、榊原大太夫の関係方面、

○ 飢えたる犬は棒を怖れず

元宇治山田市長等を訪れ探索したが、関係書類は神宮宝物館をさがさなくては判明しないことがわかり中止のやむなきに至つたとのこと。

長谷川氏は仏門に入り権僧正の地位に進み、晩年自己の経歴を手記して元持穴の医師石神慶之助氏に贈られた文獻にこの記録があることをご紹介して石神氏の御厚意に感謝することを附記する。

お宮の境内は、樹のまわり十三米余高さ五十三米余りの巨大な御被杉を中心に、うっ蒼とした大森林の神域であつたが、これを伐りはらつて、この由緒と伝統を永く後世に伝えようと氏子の総意により、本社の跡に、尺二寸角高さ八尺御影石の記念碑を昭和四十一年七月十六日に建立した。

神の正面「伊勢神神社旧鎮座跡」の大文字は元通産大臣福田一氏の筆である。向つて左側面には社掌野村利経氏以下現住氏子四十九戸の氏名、裏面には移転の略歴が銘記され神社の所在地であつたことを表示している。

### 学校放送



### 校歌

学校の校歌は学校や村の歴史、理想民族性等がよく織込まれている。村内の学校で校歌の制定されているもの。

- 一、清き流れの 大納川
- 二、清き流れの 大納川
- 三、清き流れの 大納川
- 四、清き流れの 大納川

はげますごとに 朝夕に  
希望にもゆる 大納校  
三坂の山に ときわぎの  
たえて伸び行く 我もまた  
月のかつらも たおれとぞ  
努めにはげむ 大納校  
あゝ美わしの 山川に  
そびゆるいらか 日にはえて  
仰ぐ宝の ふもとこそ  
若き命の 大納校

その名も高き 中道は  
国の内外に かがやきて  
学ぶ健児ら みな共に  
お話し立てん 大納校  
朝日小学校校歌

ひかりも深き 丸頭童の  
あざと玉を ひろわんと  
つどう我等の 意気高く  
立てし心は ゆめかえじ  
あさづく光 いろいろけて  
友に誠を つくしつ  
今日も学ばん 明日もまた  
人の鑑と ならんまで  
朝日中学校校歌

朝霧晴れて 荒島に  
陽光のそそぐとき  
此処昇童の地 千古の生命を極め  
清冷なる希望の泉  
湧きて止まず  
山脈めぐり 故里に  
幸恵む時

高き理想 我等の胸にもえ  
ひたぶるの 若人のはこり  
永遠にはばたく  
至誠は満ちて 学舎に  
集う友垣  
黎明の時代 あふれ来たりて  
此のあゝ遠望の夢  
共に果たさん

(三面よりつづく)  
カルガ故ニコノ指導者タル者ハ常ニコノ心ヲユルガセニスベカラザルコトヨクヨク思案ヲメグラスベキモノナリコレスナワチ母ノ会ノイワレヨク心得タル念入りノ行者ト云ウベキモノナリ。アナカシコク

### 十月の解説

十月のことを和名で「かみなづき」とか「かんなづき」とか呼んでいます一般には十月になると日本国中の神さまが、みんな出雲の大社に集まるので各地の神さまは全部のすになるので「神無月」と呼ばれたとしております。一つには十月になると雷がすつかり消えさることから「雷無月」がなまつて「かみなづき」となったという説もあります。

### あとがき

十周年記念行事も村民の皆さんに絶大な御協力を得て無事終了し、当局も亦ホッとしたりとところで紙上厚く御礼申上げます。  
新企画の「いずみ」も、各位から陰に陽に御支援を賜り着々所期の方針通り歩をすゝめつゝあります。更に改善すべき点などお気づきの方は是非編集部まで御通報願います。  
編集に生気を吹き込むため本月より新たに大納小学校長古川将先生を編集委員に加わって頂きました。従前よりの編集子と共に御活用願います。